

# 岩手県感染症週報

平成26年第44週(10月27日～11月2日)

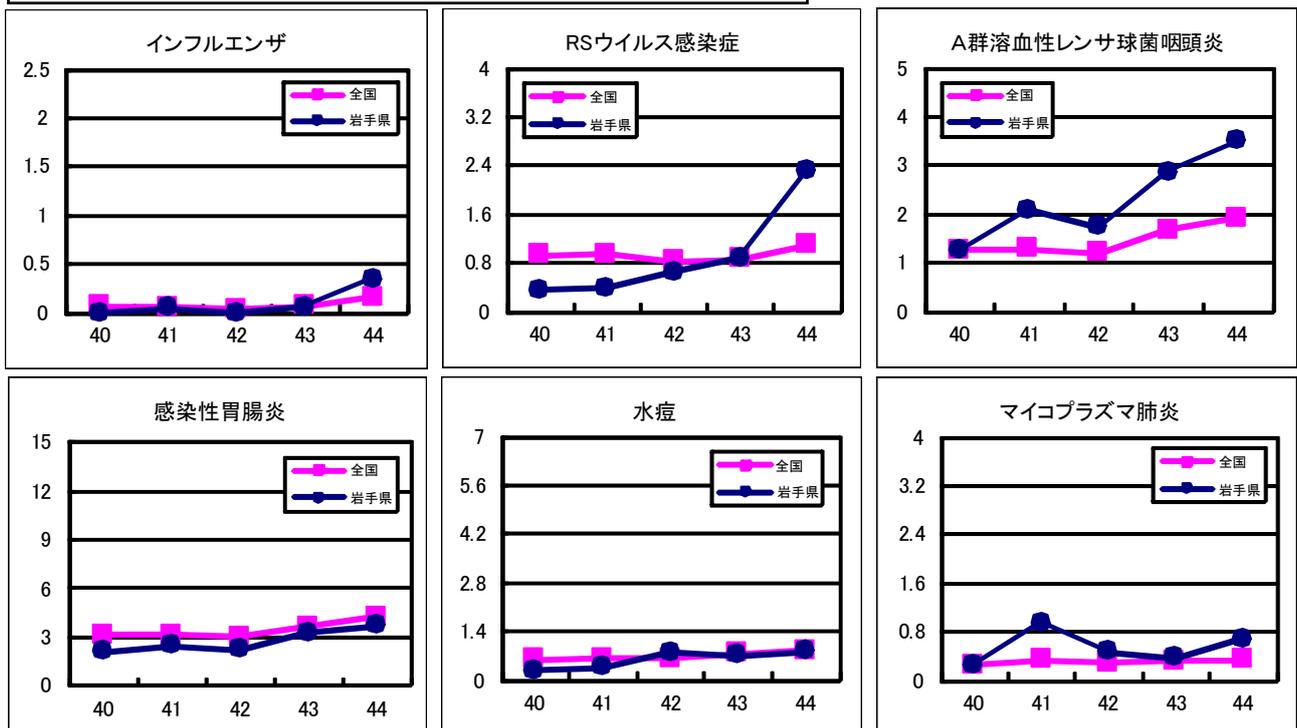
岩手県感染症情報センター

## 第44週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が3例ありました。このうち、潜在性結核感染症は2例です。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の患者の報告が、奥州地区より1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・アメーバ赤痢の患者の報告が、盛岡市より1例ありました。
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の患者の報告が、盛岡市より1例ありました。
  - ・急性脳炎の患者の報告が、盛岡市より1例(簡易キットでA型インフルエンザ陽性)ありました。
  - ・風しんの報告が、奥州地区より1例ありました。患者は20歳代の男性です。
  - ・水痘(入院例)の患者の報告が、盛岡市より1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・溶連菌咽頭炎は、県全体の報告数が前週よりさらに増加し、平成11年以降で一番多い報告数となりました。地区別では盛岡市、中部、宮古および二戸地区で、年齢層別では3～9歳に多くなっています。突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うこともあります。また、感染後急性腎炎を併発することがあるので7～10日間の抗菌薬内服が必要です。予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いの励行が重要です。
  - ・RSウイルス感染症は、急増しました。奥州および釜石地区で多くなっています。患者のほとんどが2歳以下で、細気管支炎や肺炎を併発し、呼吸困難を呈することがあるので注意が必要です。
  - ・インフルエンザは、盛岡市、一関および二戸地区から報告がありました。一関地区の小中学校では今シーズン初の閉鎖措置がとられました。予防にはワクチン接種、外出後の手洗い、咳エチケットなどが重要です。

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		40	41	42	43	44		
インフルエンザ	岩手県	0	0.05	0	0.06	0.34	→	
	全国	0.07	0.06	0.04	0.07	0.16		
RSウイルス感染症	岩手県	0.35	0.38	0.65	0.88	2.3	↗	☆
	全国	0.92	0.94	0.82	0.86	1.09		
咽頭結膜熱	岩手県	0.15	0.15	0.08	0.05	0.08	→	
	全国	0.27	0.27	0.25	0.3	0.37		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.25	2.08	1.73	2.85	3.5	↗	☆
	全国	1.26	1.28	1.19	1.66	1.91		
感染性胃腸炎	岩手県	2.1	2.45	2.2	3.23	3.65	→	☆
	全国	3.13	3.12	2.98	3.62	4.23		
水痘	岩手県	0.28	0.35	0.78	0.7	0.83	→	☆
	全国	0.59	0.63	0.63	0.76	0.84		
手足口病	岩手県	0.53	0.65	0.63	0.4	0.45	→	☆
	全国	0.71	0.78	0.59	0.6	0.75		
伝染性紅斑	岩手県	0.13	0.2	0.23	0.45	0.18	→	☆
	全国	0.16	0.15	0.14	0.19	0.23		
突発性発疹	岩手県	0.48	0.48	0.53	0.45	0.6	→	☆
	全国	0.56	0.57	0.53	0.57	0.57		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.58	0.38	0	0.08	0.08	→	
	全国	0.5	0.38	0.23	0.18	0.17		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.18	0.2	0.1	0.2	0.23	→	☆
	全国	0.3	0.28	0.28	0.3	0.28		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.21	0.71	0.29	0.21	0.43	→	☆
	全国	0.55	0.49	0.52	0.48	0.5		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.03	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.16	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.05	0.02	0.05	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.95	0.47	0.37	0.68	→	☆
	全国	0.26	0.33	0.29	0.32	0.33		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	1	3	5	2		
	全国	4	5	4	9	12		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が  
2013年10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		40	41	42	43	44	累計	44	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	4 (0)	6 (0)	12 (5)	6 (0)	3 (2)	236 (87)	316	21837
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	4
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	3	11	124
	腸管出血性大腸菌感染症	2	2	3	2	0	130	53	3769
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	49
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	15
四類 感染症	E型肝炎	0	1	0	1	0	5	0	121
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	2	418
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	15
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	8
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	57
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	つつが虫病	0	0	0	0	0	5	9	138
	デング熱	0	0	0	0	0	1	2	319
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	5	211
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	10
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	53
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	14
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
レジオネラ症	0	0	1	0	1	7	24	1036	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	36	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	岩手県					累計	全国	
		40	41	42	43	44		44	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	1	0	0	0	1	14	8	940
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	0	200
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	1	1	3	112
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	1	5	0	382
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	1	0	86
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	3	1	146
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	221
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	17	1267
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	55
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	167
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	28
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	8	14	1416
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	1	1	6	63
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	9
	梅毒	0	0	0	0	0	2	19	1377
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	9
	破傷風	0	0	0	0	0	4	1	115
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	43
	風しん	0	0	0	0	1	2	3	304
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	453	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
指 定	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

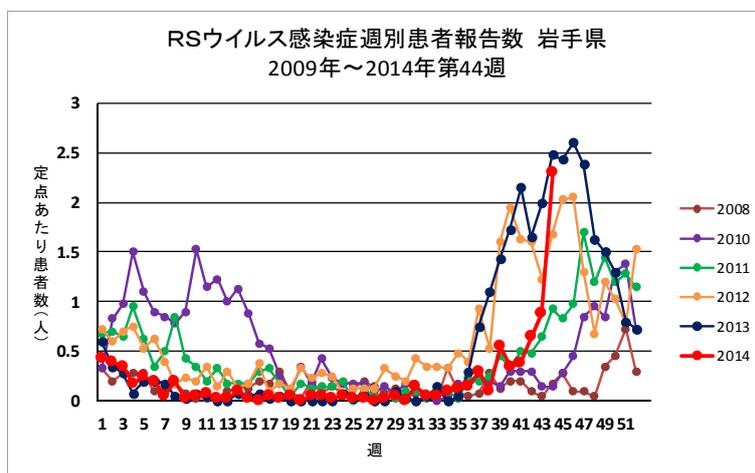
今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス (respiratory syncytial virus) を原因とする呼吸器感染症です。終生免疫は獲得されず、年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を繰り返す、生後1歳までに半数以上の児が、2歳までにはほぼ100%の児が初感染を受けるとされています。症状は、軽い風邪の症状から重い肺炎までいろいろです。初めて感染した場合には、肺炎や細気管支炎など重篤な症状を起こす場合があります。無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症なども注意すべき合併症です。

例年、冬期に発生のピークが見られますが、2012、2013年は9月上旬から報告数が増加し始めました。今年も、第42週 (10月中旬) から報告数が増加し始め、第44週に大きく増加しました。今後の発生の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症に関するQ&A [http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)



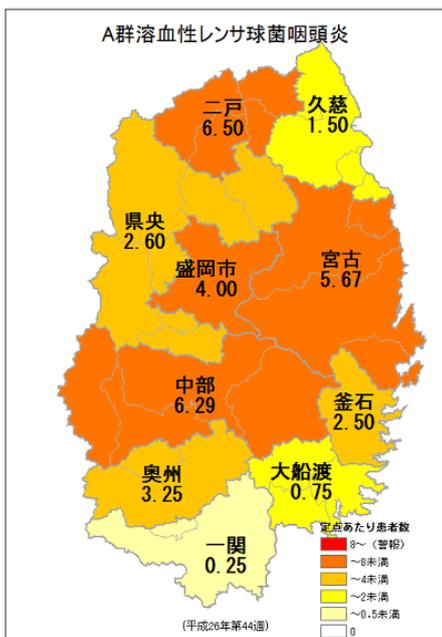
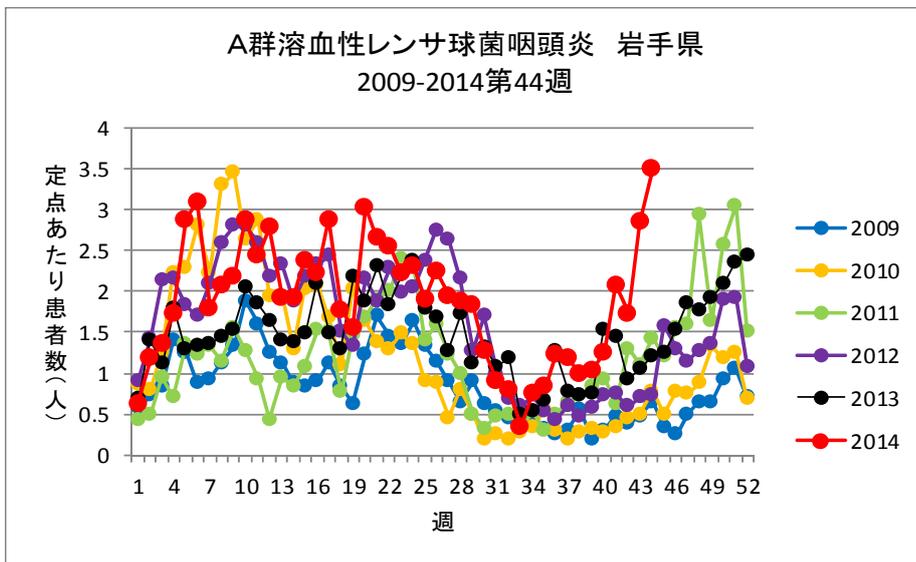
今注目の感染症 (つづき)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

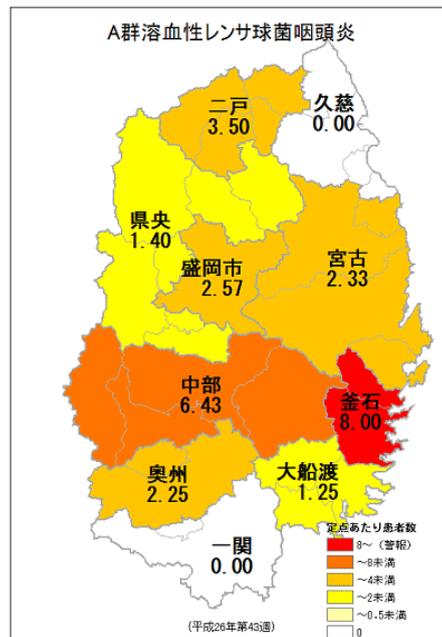
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので7～10日間の抗菌薬内服が必要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つ報告数のピークがあります。例年、第44週は患者数が少ない時期ですが、今年は、過去5年間で患者数が一番多く報告されています(下図)。



第44週



第43週

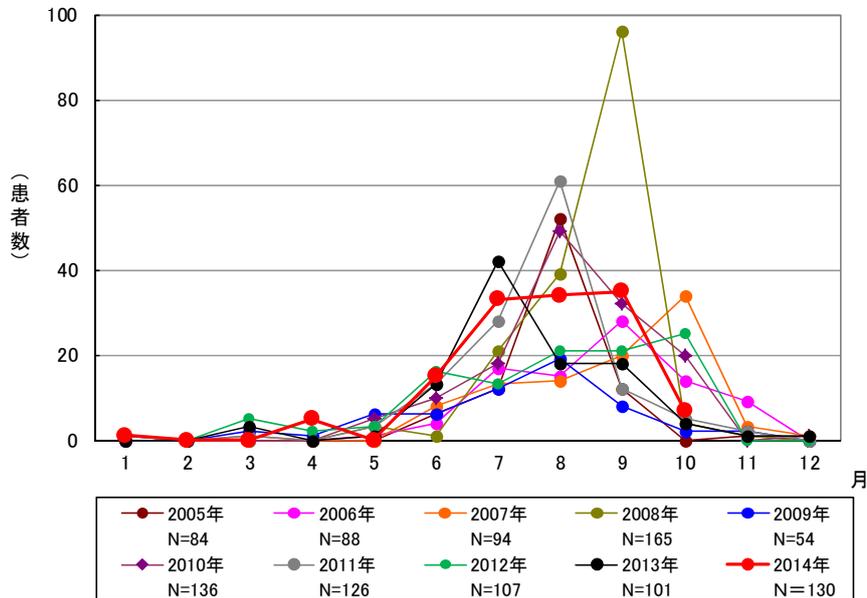
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

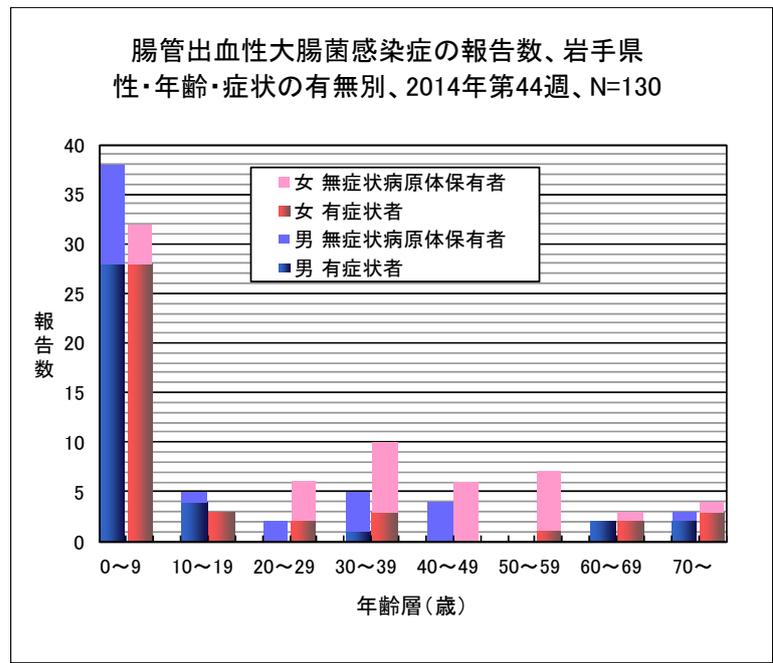
腸管出血性大腸菌感染症は、第44週までに130例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が22例、O26が92例、O103が11例、O145が3例、その他が2例となっています。年齢層別では、0～9歳が70名、30～39歳が15名、40～49歳が10名の順に多くなっています。

予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないこと、野菜は流水で十分に洗うことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水を用いた手洗いの励行も重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数  
(岩手県2005年～2014年)



腸管出血性大腸菌感染症の報告数、岩手県  
性・年齢・症状の有無別、2014年第44週、N=130



## 病原体検出情報

- ・この週に病原体検出情報はありません。

## 集団感染情報

- ・この週に集団感染情報はありません。

## 医療機関からの情報

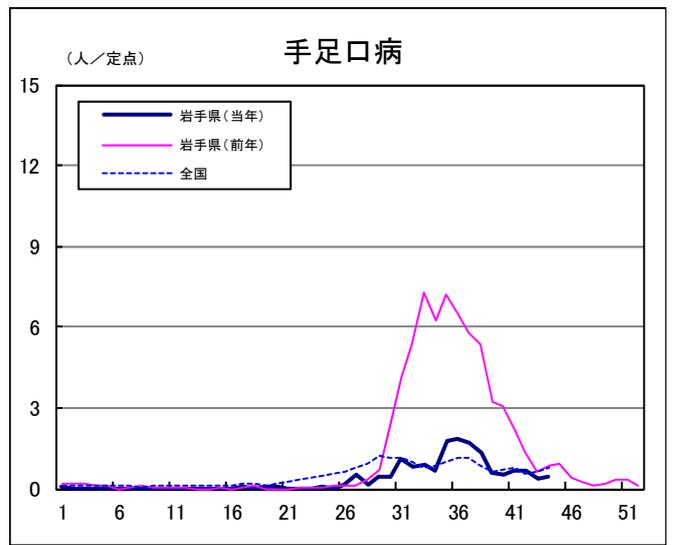
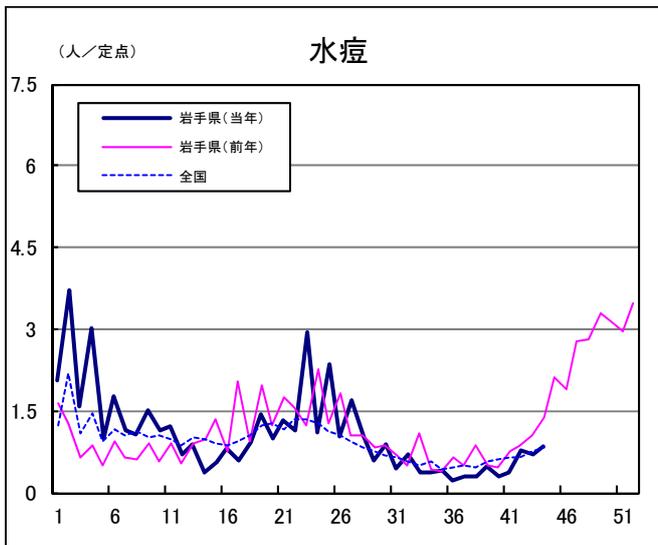
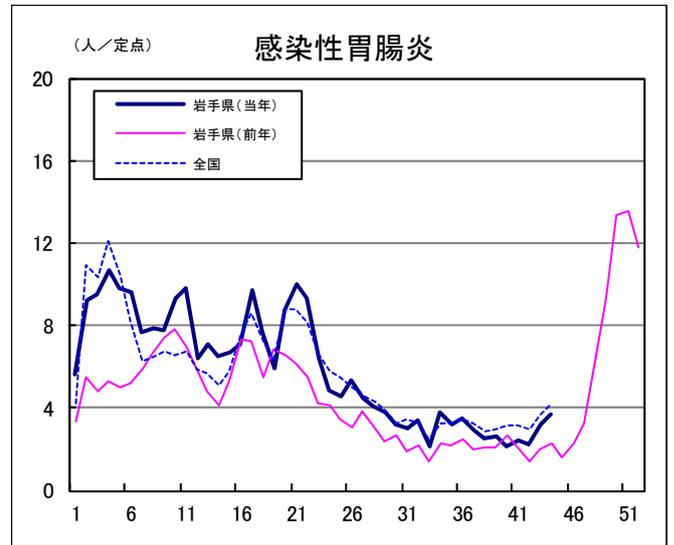
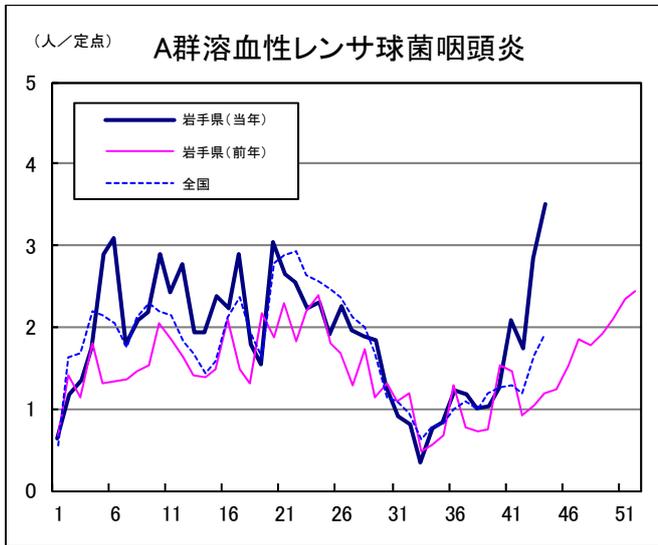
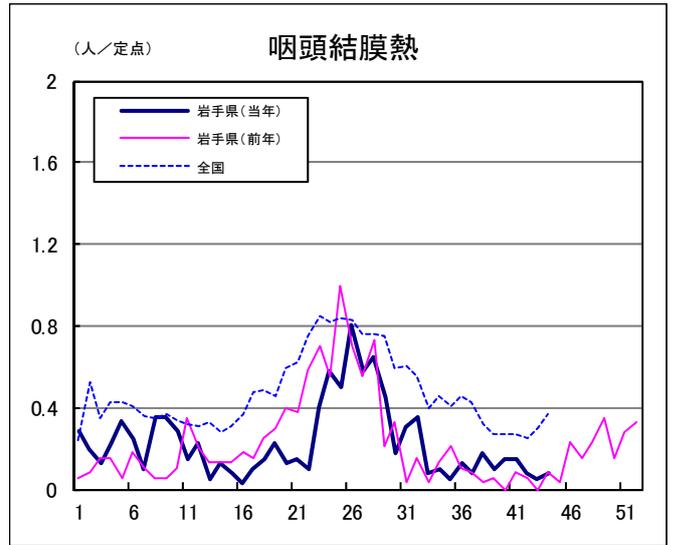
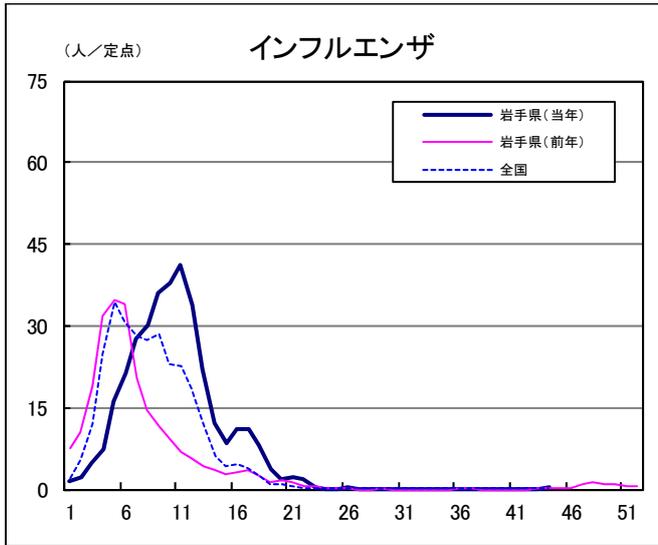
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

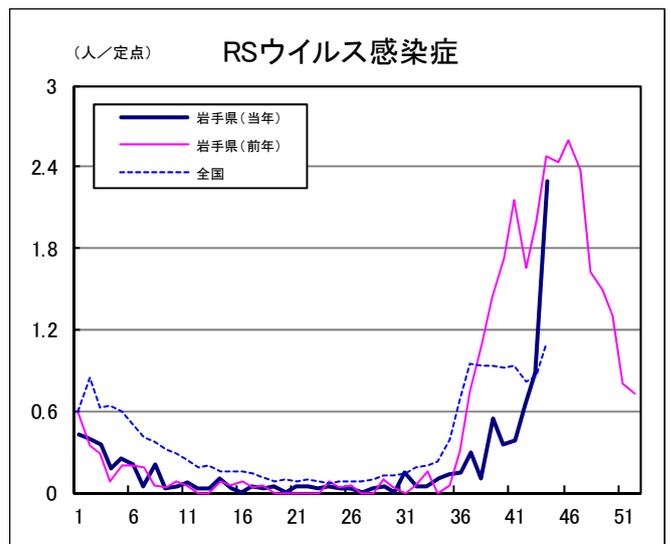
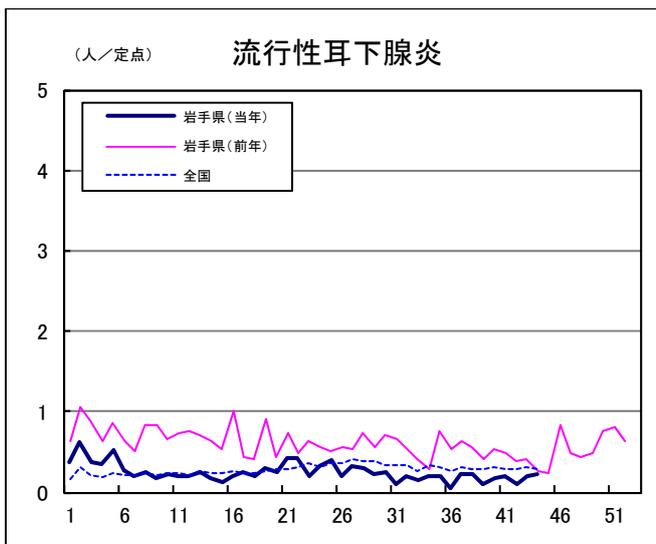
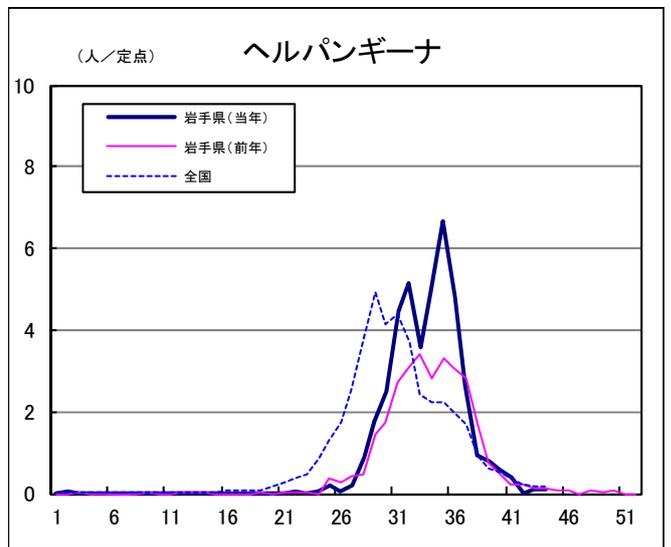
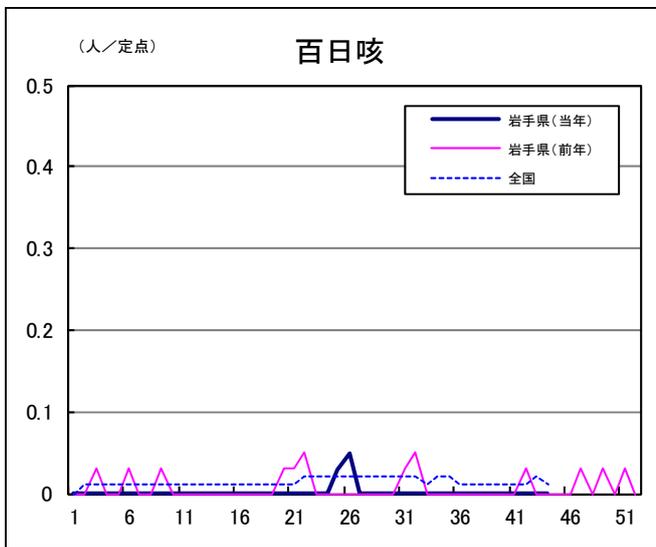
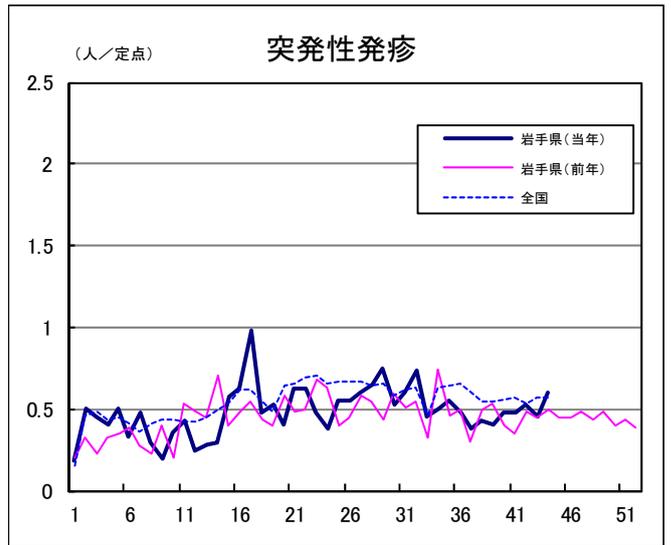
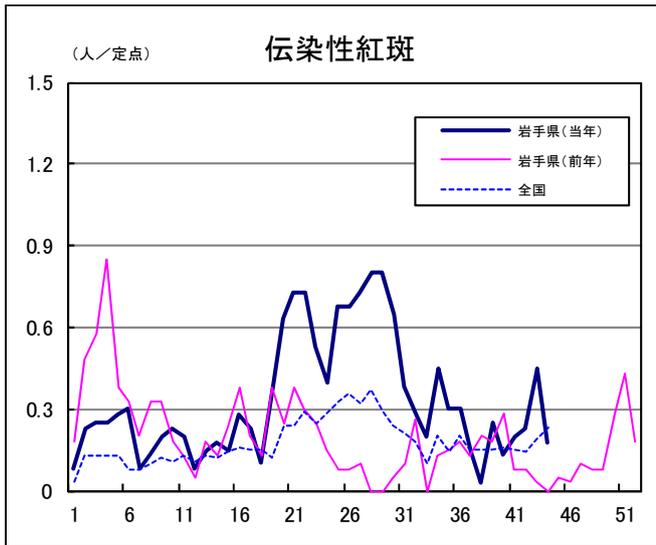
## Q & A

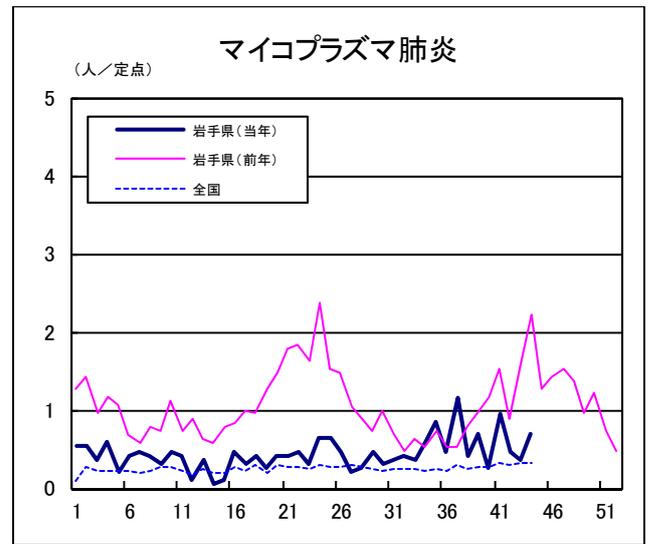
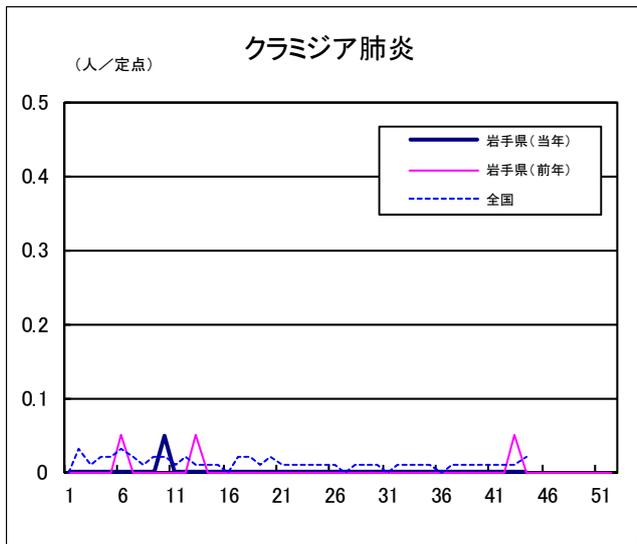
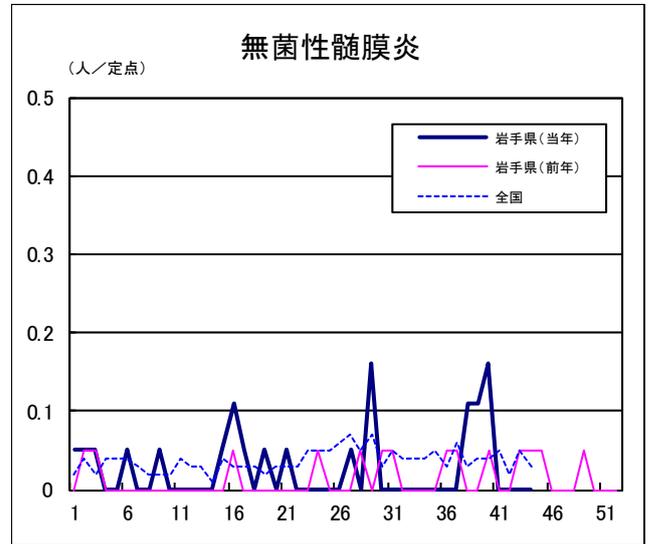
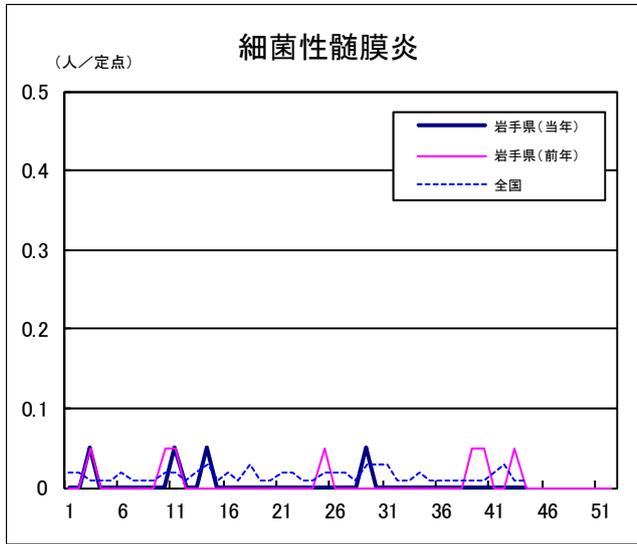
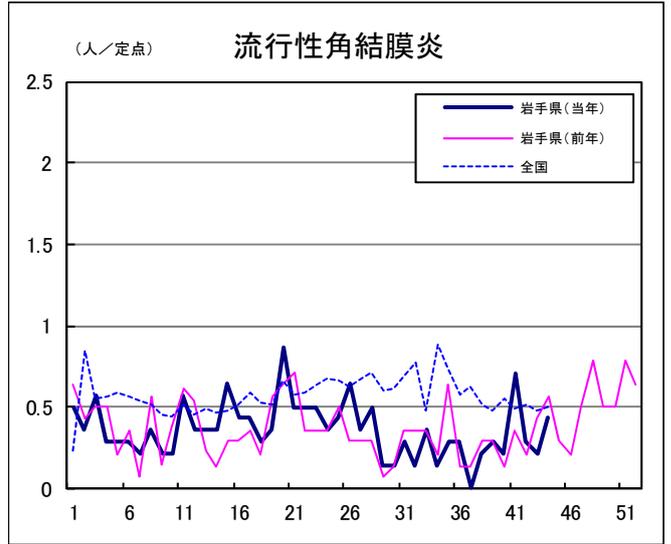
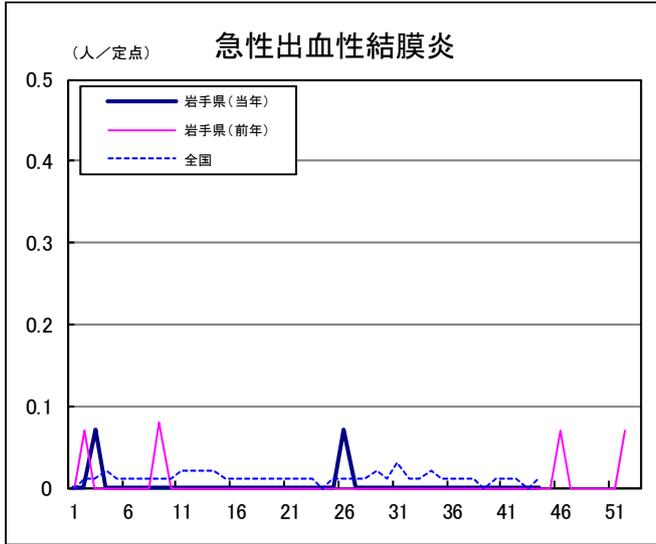
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)

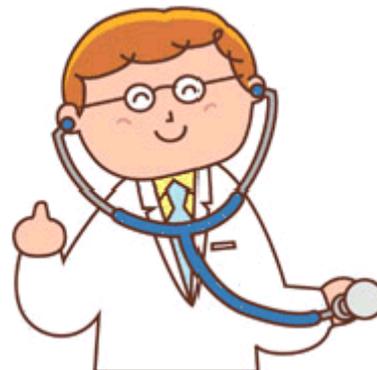






定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		64	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		7	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成26年第44週 平成26年11月7日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/jouhou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>